# ほ場の排水対策にハーフソイラを活用してみませんか？

## ＝排水不良による農作業の増加や作物の品質向上も！＝

屋久島の土壌は重粘土であるため，ほ場の排水不良が原因で，農作業の管理時間の増大や作物の生育不良が発生しています。

そこで，ハーフソイラによる耕土を破砕することで，排水不良が改善されます。

屋久島農業管理センターでのハーフソイラの作業単価は，10ａ当たり1,944円（税込み）です。ほ場の排水不良を改善したい方は，ぜひ，御活用ください。

ハーフソイラ３本爪

ハーフソイラ施工（深さ40cm）

施工後の破砕深さ（深さ40cm）

施工後の状況

【問合せ先】屋久島農業管理センター　TEL0997-49-3028

県屋久島事務所　農林普及課　TEL0997-46-2236

（担当：北田）

# 新たな仲間を歓迎！！
# 新規就農励ましの会を開催

7月9日に町営農支援センターで，地区農業改良普及事業協議会主催による新規就農者励ましの会が開催され，青年農業者育成に尽力いただいている指導農業士，女性農業経営士を始め，認定農業者や関係機関を含め51名が出席し，屋久島の農業を支えていく新たな仲間を歓迎しました。

本年度の新規就農者は，日高大地（ひろし）さん（平野，茶経営）の1名。

日高大地さんからは，「わからないことがたくさんあるが，頑張って良いお茶を作りたい」と今後の農業経営に対する抱負が語られ，先輩農業者からは，「土づくり等の基本技術が重要。迷ったら基本に戻って考えて欲しい」とエールが送られました。

就農された方が早期に経営を確立し，地域農業の担い手として活躍されるよう，農業普及係では，関係機関と協力しながら，技術・経営等の支援を行ってまいります。

新規就農者〈前列左から3番目：日高大地（ひろし）さん〉

（担当：内村）

# 土壌中にリン酸が蓄積していませんか？

## １　リン酸過剰による作物への影響

一般的にはリン酸が過剰になると，収量が低下したり，鉄や亜鉛が欠乏し，葉の先端や葉縁部，葉脈間にクロロシス（白化）が現れます。

最近では，リン酸過剰がアブラナ科野菜根こぶ病，ばれいしょそうか病などの病害を助長するという報告がされています。

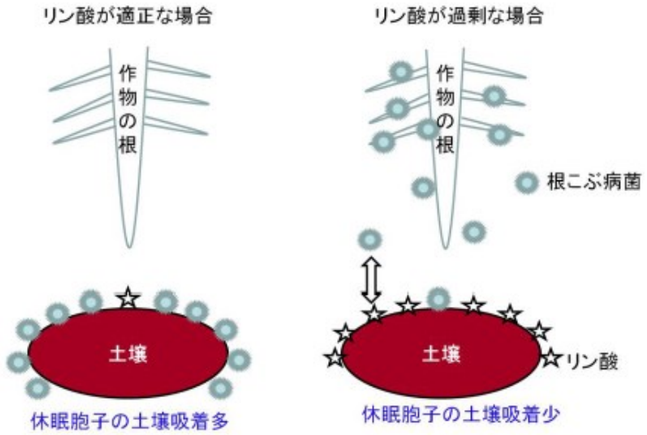
クロロシス（白化）

### ①アブラナ科野菜根こぶ病

多量のリン酸肥料を施すと，リン酸が土壌に吸着し，根こぶ病菌の休眠胞子が土壌中に遊離することで発病しやすくなります。

### ②ばれいしょそうか病

多量のリン酸肥料を施すと，土壌中のアルミニウムイオンと結合し，化合物となります。そうか病菌の発育を阻害するといわれているアルミニウムイオンが減少し，発病しやすい環境になります。




リン酸と根こぶ病休眠胞子との関係（模式図）

## ２　土壌診断に基づくリン酸施肥

土壌診断結果の可給態リン酸の数字を見てみましょう。この数字が50mg/100g程度までは，リン酸肥料施用により増収効果がありますが，50mgを越えるとリン酸肥料を施用しても増収しません。

右図にあるリン酸減肥基準を用いて，施肥量を調整する必要があります。土壌病害を減らすためにも，土壌診断に基づく総合的な土壌管理を心がけましょう。

土壌診断に基づいた野菜畑のリン酸施肥
～減肥の基準～

| 可給態リン酸（mg/100g） | リン酸施肥量（基準量比） |
|---|---|
| 10未満 | 100%（要 土壌改良） |
| 10～30 | 100% |
| 30～50 | 50% |
| 50以上 | 無リン酸 |

注)1. 適用作物は露地野菜やサツマイモ畑で，牛ふん堆肥等の施用による 土づくりを前提とした基準
2. リン酸施肥量は，地域の慣行施肥基準量に対する割合

（鹿児島県ＩＰＭネットワーク第２２号より引用）

（担当：入料）



# 茶園における簡易降灰確認方法について

## １　はじめに

平成27年5月29日，6月18日，19日に口永良部島の新岳が噴火し，摘採前の茶葉に降灰の付着が確認されました(図1)。

降灰がお茶の製品に混入すると異物混入として消費者等のクレームや返品等の対象となります。

そこで，茶園における簡易の降灰確認方法及び対策について紹介します。

〈図1 口永良部島新岳噴火による茶園の降灰状況〉

## ２　簡易降灰確認方法

①摘採前に摘採面の各部分からサンプル生葉15g程度を手摘みします。

②サンプル生葉を直径20cm程度の丸底の白色系ボールに入れます。

③生葉を十分に揉み洗いします(図2)。

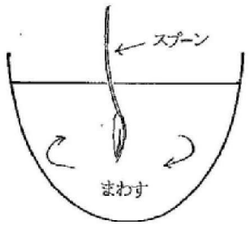
④生葉をすくい出します(切葉等も全部すくい出します)。

⑤2～3分程度放置して灰が沈むのを待ちます。

⑥スプーン等で水に回転を加えます(図3)。

⑦灰をボール中央に渦巻き集中させて有無を確認します(図4)。

〈図2 生葉の揉み洗い〉




〈図3 水を回転させる〉

〈図4 中央に沈んでいるのが降灰〉

## ３　降灰が確認された場合の対策

スプリンクラー(散水粒径が大きく，均一に散水できる機種が望ましい)で散水する(10aあたり30～50t(10～16時間))か降雨を待って摘採します。

**降灰の疑いがある場合は，摘採前に必ず，本方法により降灰無しを確認後，摘採しましょう。降灰茶を「つくらない，売らない，買わない」の三原則を徹底し，クリーンなかごしま茶づくりに努めましょう。**

（担当：内村）

# 牛舎環境を工夫して，「元気な子牛づくり」を実践しよう

近年，子牛相場の高騰が続いていますが，円安等の輸入価格の高騰で飼料，資材等の経費の増大により，依然，経営の不安定な状況は続いているとも言えます。

平成26年の屋久島産の子牛価格は，348頭の売上で，平均517千円でした。そのような中で，子牛の死亡事故が目立ち，家畜診療費がかかるだけでなく，１頭分の収入が減少し，所得の減少，費用の支払い困難といった状況を引き起こします。

今こそ，飼養管理や牛舎環境を見直し，疾病対策を行うことが必要です。

今回は，飼養管理の中でも牛舎環境の改善工夫の例を紹介しますので参考にしてください。

## １　牛舎内換気扇

①　目　的

・牛舎内のアンモニア臭などの換気

・牛床の乾燥　　・防暑対策

②　使用例

・繁殖牛は傾斜角をつけ，肥育牛は直下型に取り付ける。

・夏冬問わず稼働させると良い。

③　効　果

・牛舎構造にもよるが，送風距離は６～８ｍ

・夏季の牛舎温度を２～３℃低下させる。

・冬季に最も弱い速度で回転させ，牛舎内を 換気すると，風邪蔓延の予防に有効。

〈旭牧場の換気扇ー傾斜角は６０度ー〉

## ２　細霧装置

①　目　的

・夏季の牛舎内の防暑対策

・冬季の肺炎等呼吸器予防

②　使用例

・間断タイマー使用で60分間隔，２分噴霧

・牛体，牛床をぬらさないことが重要

③　効　果

・夏季の牛舎温度を２～５℃低下させる

・冬季の風邪，肺炎等の呼吸器病を抑える

・採食量を維持させ，健康な発育が期待

〈細霧装置ー曽於地域の事例からー〉

**牛舎内換気扇も細霧装置も，おがくずなどによる牛床管理を行うことで，効果が増します。相場の良好な今こそ，飼養管理，牛舎環境を見直して，健康な子牛づくり，もうかる経営を実現しましょう。**

（担当：徳田）



# 集落での話し合い活動のすすめ

## あなたの集落や地域ではこんな問題はありませんか？

・地域農業を支える担い手がいない。（任せられる組織もない）

・若者が少なく，お年寄りが多い。

・荒れ地が増えてきている。集落での用排水路の維持管理ができなくなった。

・機械コストが高く，困っている人が多い。（先々の更新もできない）

・農産物価格が低迷する中で先々が不安。

・規模拡大したいけど農地が集まらない。

・農地を集積して効率の良い農業をしたいが，協力を得るのが難しい。

**集落の話し合い活動により我が集落に必要な営農のしくみづくりについて，いま一度検討してみましょう！**

### 集落内の農地を誰がまもるのか？

**◆集落内の農地を守ってくれる担い手がいる場合**

その担い手が，農業を続けやすいしくみ（農地の利用調整や農地集積，効率的な生産体制等によるコストの削減や農作業受委託の取組，次世代を担う農業者の確保など）を検討しましょう。

**◆集落の農地をまもってくれる担い手がいない，または不足している場合**

みんなで農地をまもるため（遊休農地の活用，農村景観の保持，地域特産品づくり，労働力補完システム作りなど）の検討しましょう。

### 農地をどのようにまもるのか？

どこの農地を誰に守ってもらうのか？担い手への農地の集積をどのように実現するの？など検討してみましょう！

**農林普及課では，話し合い活動を進め，地域営農のしくみづくりの取組を支援していきますので　御相談ください。**

（担当：上福元）